

この度は「情報労連 愛の基金」様より助成金の決定をして頂き、誠にありがとうございました。

組合員の皆様の貴重な浄財であると心して大切に使用させていただきます

私共「宮城朗読奉仕会」はブログ (<http://miyagirh.exblog.jp/>) で情報を発信していますので、ご一読頂けると幸いです。

さて、近年の日本は高齢化により『中途失明者』が増加しております。これは生活習慣病による糖尿病性網膜症や加齢による黄斑変性症・緑内障・白内障が原因とされています。

全国視覚障害者数は31万6千人で、その内70%の21万8千人が65歳以上と言われます。高齢の中途失明者は点字の習得が極めて困難な為に、音声による情報収集が大半です。つまりニュース等はテレビ・ラジオに頼らざるを得ません。日常生活においては多大な不便をきたしている現状です。

当会は創立45年になりますが、視覚障害者福祉の向上を少しでも図るべく「目の代わり」としての『音訳』作業を主な活動としている奉仕団体です。

『音訳』とは目に見える情報は全て「音声情報化」する作業です。利用者さんの求めに応じ小説・専門書・新聞・雑誌・情報誌等のもとより、県の公報紙・選挙公報・通販カタログ・写真集・料理のレシピ本等も音声でお届けしています。

録音したものは電子図書館「サピエ」に登録し、全国の視覚障害者の皆さまに利用して頂けます。

また対面音訳や利用者さんとの交流会も開き情報交換に努めています。正確な音訳作業をするために毎月定例会では、音訳技術の向上や共通認識を深めるように努めています。さらに一年に一度新人養成選考試験を行い、合格者は講座を30回受講し修了後は会員として活動をします。大半の会員は自宅でDR-1という録音機で吹き込みをしますが、1台が約4万5千円と、とても高価なために個人購入が難しい現状です。

会員は約150人いますし、耐用年数がくると修理や買い替えも必要になります。会費では賄いきれないので、貴会からの助成金が購入の大きな助けとなっております。心より感謝申し上げる次第です。

これからも会員一同日々研鑽し、障害者の福祉に少しでも貢献できればと思っております。

末筆ながら貴会の益々のご発展をお祈り申し上げますと共に、御礼の言葉とさせていただきます。

宮城朗読奉仕会
会長 本間恭子